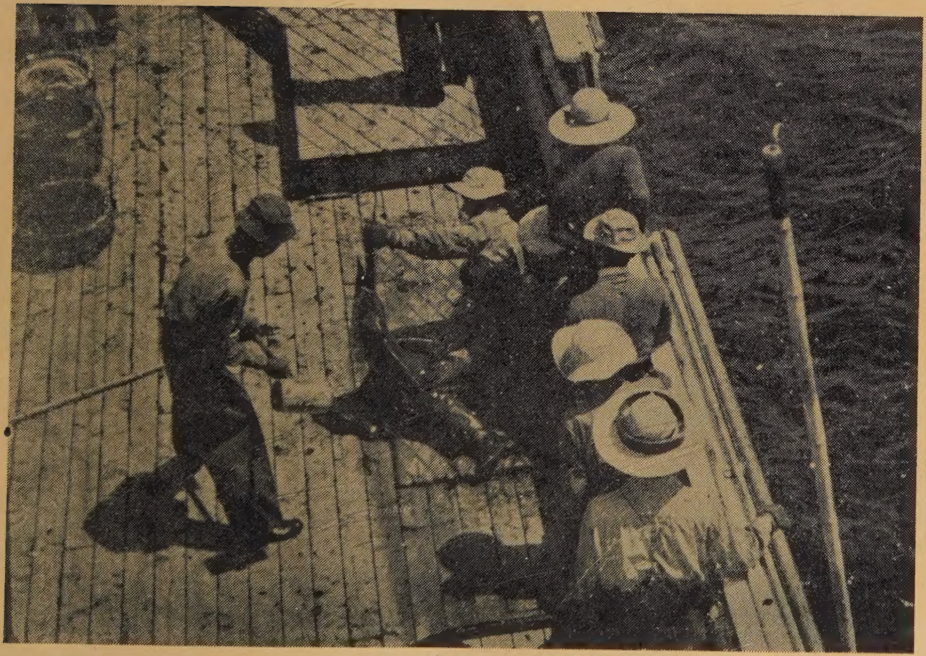
Jul 1956

MAY 1958
LIBRARY
POFI
FISH & WILDLIFE
SERVICE

鮪漁業

Tuna Fishing



——印度洋上カジキと取組む　相模丸にて——

THE INVESTIGATIVE SOCIETY OF TUNA FISHERY
*** JAPAN ***

鮪漁業研究会

No. 37, 1957

◇新時代の冷凍機◇

（高速多気筒）

ダイヤ冷凍機

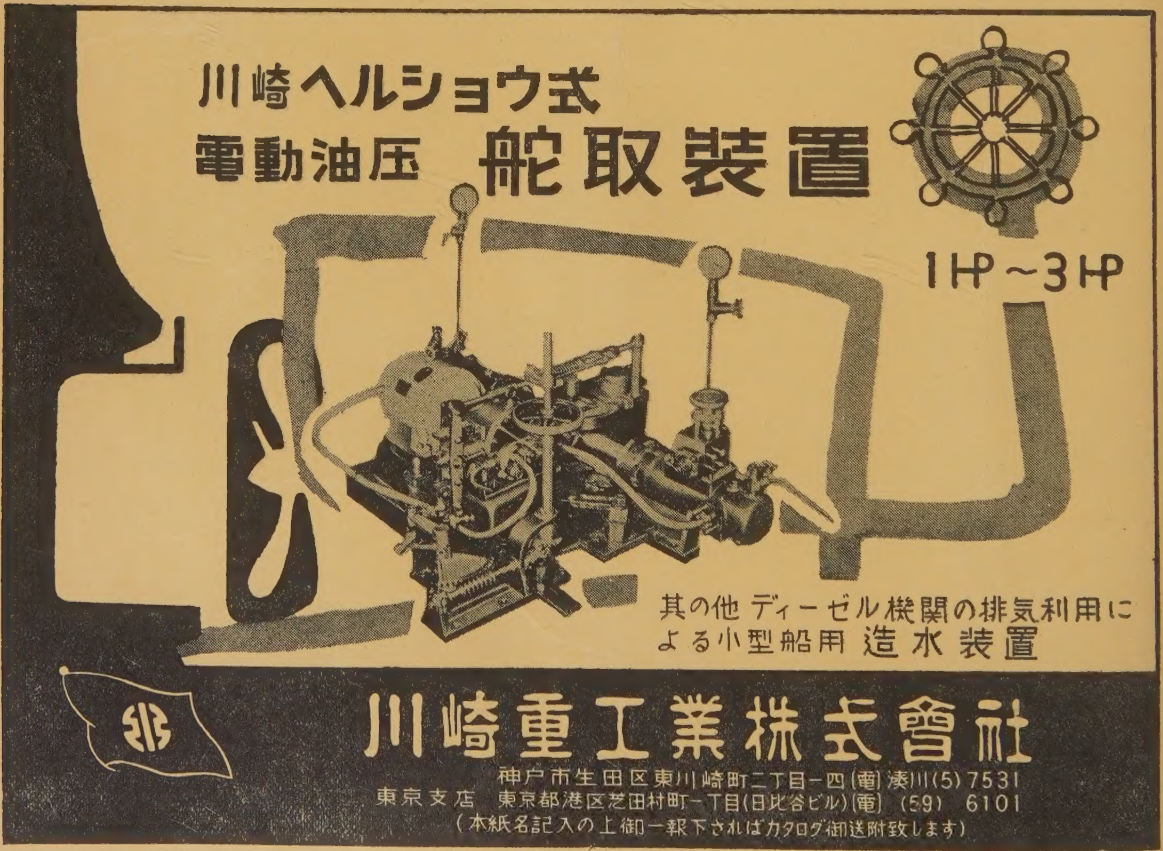
（新三菱重工製）

漁船船舶冷凍装置・製氷冷蔵凍結施設

設計・製作・施工

株式会社 **東洋製作所**

本社・工場　東京都品川区東品川5の61
電話大崎（49）代表2173—7番（49）6004番 営業部直通
営業所　大阪市北区乗田町47（新阪神ビル）
電話福島（45）4914（直通）9231—5（内線 372）



川崎ヘルショウ式
電動油圧 **舵取装置**

1HP～3HP

其の他ディーゼル機関の排気利用による小型船用 造水装置

川崎重工業株式會社

神戸市生田区東川崎町二丁目一四（電）湊川（5）7531
東京支店　東京都港区芝田村町一丁目（日比谷ビル）（電）（59）6101
（本紙名記入の上御一報下さればカタログ御送附致します）

目次

鮪漁船紹介　第十八海幸丸　第二十八宝幸丸

鮪漁場図　（昭和31年7月操業）

三崎他二港の水揚調査を主体とする遠洋鮪漁業の考察（昭和31年現況）…………1

1. 調査の概要…………1
2. 漁況の概況…………1
3. 各漁場の漁況…………1

月別，漁場別，鮪類漁獲調査表（昭和31年7月操業分）別表1…………8

月別，漁場別，鮪類体長組成表（昭和31年7月操業分）別表2…………10

会員レポート　小スンダ，チモール沿海31年5月の海況，漁況の報告…第十二丸高丸船長 会員 田中信男…7

鮪類標識放流の現況…………13

鮪類漁場別価格表　昭和31年11月（三崎）…………農林事務官 佐藤　務…16

鮪類水揚価格表（三崎）昭和31年12月，昭和32年1月…………17

海のかなた（濠洲）の鮪漁業…………神奈川県水産試験場漁撈部訳…18

鮪類標識放流について…………6

英国のクリスマス島周辺における核実験に伴う危険区域について…………6

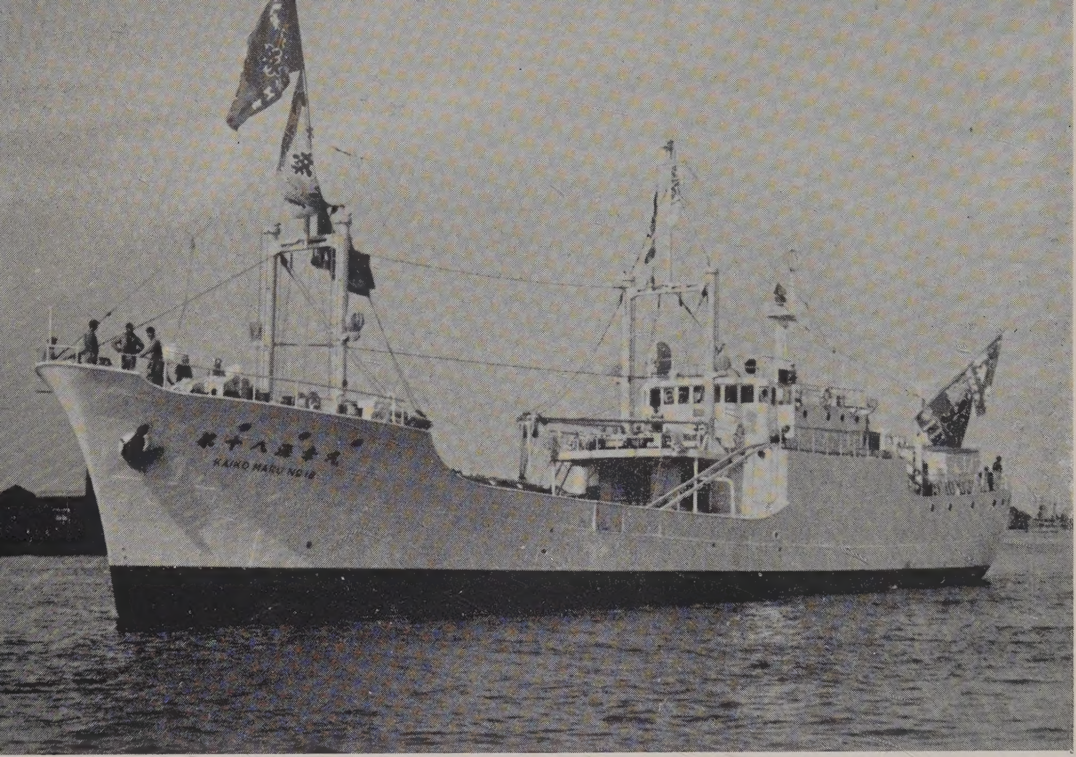
本会の図書誌の分譲其の他について…………21

強くて・安くて・腐らない

鮪延縄に絶対経験と信用のあるメーカー

クレモナ　テビロン　国産製麻株式会社

本　社　東京都中央区京橋三丁目四番地　電話東京（28）6605・6606番
工　場　栃木県鹿沼市朝日町　電話（鹿沼）242・243番　同上野町　電話（鹿沼）377番



第十八　海幸丸

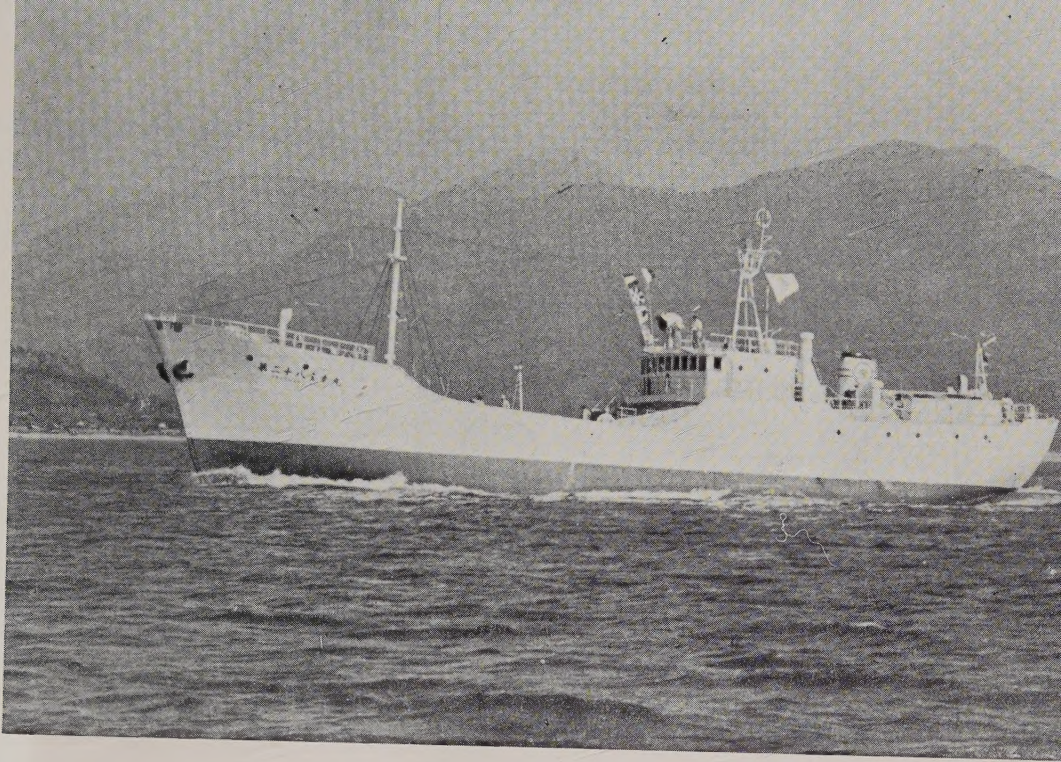
船主	柳下漁業株式会社
造船所	株式会社　新潟鉄工所
主要寸法	長 48.0m× 幅8.40m× 深4.25m
総屯数	530.99屯
魚艙容積	510m³
燃料油艙	260m³
速力	最大　13.33節
主機	デーゼル　1000HP　1基
補機	デーゼル200HP，200HP，56HP　各1基
無線	500W，75W　各１基
冷凍装置	日新興業設計施工 アンモニヤ直膨式200HP，100HP各1基
レーダー，方向探知機，魚群探知機，其の他	各１式
竣工	昭和31年10月24日

漁船の冷凍装置に定評ある

日新興業株式会社

本　　社　大阪市北区中之島３の３（朝日ビル）TEL. 北浜（23）9736—7（直通）
1334.2351.9531
東京支店　東京都中央区銀座西6の3（朝日ビル）TEL. 銀座（57）6804.6810.6811
清水出張所　清水市三保本村四区　TEL. 清水　3507
三崎サービスステーション　三浦市三崎町西野34金指造船所三崎出張所内TEL. 三浦851

施工船名
第18海幸丸
第10清勝丸
第1龍昇丸
第1水神丸
興栄丸
北星丸
（其の他約参百隻）



第二十八 宝幸丸

船主	宝幸水産株式会社
造船所	株式会社 金指造船所
主要寸法	長 42.81m× 幅7.50m× 深3.80m
総屯数	386.74屯
魚艙容積	424.8m^3
燃料油艙	178.4m^3
速力	最大 11.77節
主機	デーゼル 650HP 1基
補機	デーゼル 100HP 75HP 各1基
無線	250W, 75W 各1基
冷凍装置	アンモニヤ直膨式 高速多気筒(東洋製作所)50HP 30HP 各1基
レーダー,方向探知機,音響測深機,ヂャイロコンパス ベルトコンベヤー, 其の他	各1式
竣工	昭和30年9月30日

株式会社 金指造船所

本社工場	清水市三保4010—19	電話 清水 2380～2 3796～7
塚間工場	清水市三保弁天492	電話 清水 3870～7
東京事務所	東京都港区芝田村町3ノ4	電話 芝(43)7296～8
三崎出張所	三浦市三崎町西野34	電話(三浦) 851

▷最高の技術══永い信用◁

営業種目

VHF新聞通信社用
ビーコン装置
超短波通信機
極超短波通信機
高級無線用測定器
放送施設一式
船舶用無線機
ラジオヒーター
高級無線通信機

國際電氣株式會社

取締役社長　山下知二郎

本社・工場　東京都北多摩郡狛江町和泉150　電話 砧(41)(代)7171—9番
電話 武蔵調布 472番
東京営業所　東京都港区芝西久保桜川町 9　電話 芝(43)代表7373—9番
大阪出張所　大阪市北区中之島2の25(江商ビル508号室)　電話 北浜(23) 4553番
福岡出張所　福岡市天神町55(伊藤ビル)　電話 中(4)2589・8198番

営業種目

船舶・陸上

冷凍・冷蔵・製氷・冷房

冷凍・冷蔵・製氷工場
急速・空気凍結装置
冷房装置・冷凍機械器具
防熱装置・船舶冷凍冷蔵
設計　製作　施工

協同低温工業株式会社

本社　東京都千代田区神田佐久間町河岸58（夏目ビル2階）
電話 下谷（83）0996番

三崎他二港の水揚調査を主体とする遠洋鮪漁業の考察

（昭和31年7月現況）

三崎　鮪漁業研究会　（調査研究部）
神奈川県水産試験場　（調査研究部鮪資源担当）
東京、焼津　南海区水産研究所　（遠洋資源部）

1 調査の概要

昭和31年7月分として調査せる鮪延縄船数は，三崎17．東京1，焼津10，計28で，全海域にわたり6月より著しく少い．此れは，東京，焼津両港に於いては，7月に操業した船が帰つて来る8，9月に，調査しなかつたので，此の影響が大きい．従つて，体長測定を行つた船数は7，調査海区数は13で共に6月より少い．

2 漁況の概要

（キハダ）

ハワイ南西海区5°N以北．旧南洋庁沿海南部170°E以東は好漁期で高率．旧南洋庁沿海北部は春季の好漁期を過ぎ低率．ニューカレドニヤ海区も好漁期が過ぎ低率．サモア海区は低率期だが高率，トンガ海区は22°S以北は高率，以南は低率である．東部部印度洋は105°E以東が中程度の率で北よりに高く，6°N～6°S，90°～105°Eは低率，6°～10°S，90°～105°Eは低率期に高率，アンダマン，ニコバル海区は低率期で低いがその南の諸海域に比べれば遥かに高い．西部印度洋漁場は赤道以北，以南共に低率である．

（メバチ）

旧南洋庁沿海北部と同南部5°N以南は低率で同以北は高率，ハワイ南西海区5°N以北は低下し初めで比較的高率，サモア海区も高率期で高いが4°S以北は以南より遥かに高率，東部印度洋では6°～10Sが最も高率で105°E以東は不漁期から好漁期への上昇中期，西部印度洋ではアラビヤ海区は好漁期で高率，西部印度洋海区も好漁期で此の海区としては高い．

（ビンナガ）

ニューカレドニヤ海区は好漁期で高率，トンガ海区は22°S以北は低率，以南は高率，東部印度洋は10°S以北より以南の方が高く東よりに高率，西部印度洋海区は中程度の率である．

（クロカワ）

太平洋では北上回游の進んだところで赤道以北は高率，以南は低率，東部印度洋は6°S以南は概して低率，以北は高率期末期，西部印度洋はアラビヤ海区は好漁期で高率，西部印度洋海区は3月以降同率でアラビヤ海区より低いが此の海区としては高率である．

（マカジキ）

ニューカレドニヤ海区は不漁期であるが25°S附近の濠洲沿岸近くで多少釣れて居り，35°～40N，150～180°Eの海域は好漁有で高率である．

3 各漁場の漁況

A　西経，赤道以北の漁場（ハワイ南西海区5°N以北）

操業海域の4°30～′8°N，178°～172°Wは，全海域東向きの海流を呈し，赤道反流域にある事を示している．

（キハダ）

赤道反流域が南赤道流より著しく釣獲率が低い事は周知のところであるが，7月は最も率の高い時期で此の海域としては最高率1.3を呈している．又，此の海域は，各年を比較すると，昭和27年は低率，28年は高率，29年は低率，30年は高率を呈しているので隔年変化を呈するのではないかと考えられたが，31年は6月まではそれ程でもなかつたにもかかわらず7月に到つて上記の高率を呈し30年と同傾向となつた．従つて，此の海域が隔年変化を呈するのか否かは，8，9月の率によつて判明する．

（メバチ）

周知の如くキハダと逆に南赤道流より赤道反流の方が釣獲率が高い．此の海域は晩冬から初夏にかけてが高率期であるが，31年高率期の率は29年，30年に比較して低く，最高が1月と6月で2.5に達しなかつた．7月は低下し始め1.8となつている．10，11月にかけ漸減するであろう．

（クロカワ）

赤道以南からの北方回游により，4月以降著しく上昇して来た釣獲率は，7月に到つて0.77とかなりの高率を呈した．此の高率は9月頃迄続くものと思われる．

B　西経，赤道以南の漁場（サモア海区，トンガ海区）

サモア海区は4°S附近の東端の0°～15°S，160°～140°Wの海域との境で操業した1隻，トンガ海区は180°～170°Wを16°Sから22°S，25°から27°Sにかけて操業した2隻が，調査されている．172°W附近の15°Sから22°Sの海流は，漁場図に示されている様に，どの緯度に於いても西向きの流れであり，水温は高緯度程低く，15°S附近で27.6°C，26°S附近で21.0°Cである．

（キハダ）

サモア海区のキハダは，全海域春高い釣獲率を呈し秋低い率を呈しているので，7月は，3，4，5月の漸減を続けて更に低率になるのではないかと推察されたが，160°E附近で海区の東端とは言え，4.5と非常に高い率を呈している．原因は不明．

トンガ海区に於いても25°～27°S，179°～175°Wの海域は0.8で非常な低率であるが，16°～22°S，172°～171°Wの海域は4.8の非常な高率を呈し，30年6月の低率の傾向と全く異つて居り，8月以下の率が注目される．

（メバチ，

サモア海区の1°～5°S，161°～159°Wの海域では4°S以北と以南でかなり釣獲率に差があり，以北は高率で1.43，以南は0.55であるが，共に夏は冬より高率で，3月以降漸増している．しかし，5月から7月にかけての此の高率は29，30年の率に比較してかなり高い．

（ビンナガ）

サモア海区のビンナガは，5°S以北操業なので極めて低い釣獲率であるが，此の低率は春季の好漁期を過ぎた事をも示している．

トンガ海区は北と南で著しい差があり，16°～22°S，172°～171°Wでは0.6，25°～27°S，179°～175°Wでは3.3を呈している．30年6月も比較的低率なので夏季が低率期の様にもみえるが疑問である．

（クロカワ）

北上回游によつて赤道以北に去つたため両海区とも低率期で最も低い．

C　旧南洋庁沿海漁場（旧南洋庁沿海北部，旧南洋庁沿海南部）

南洋北部では18°～20°N，150°～152°Eの海区の中央部北端で操業している1隻南洋南部では170E以

東の5°N附近で操業している1隻が調査されている．南洋南部の海流は漁場図に示されている様に2°N 174°E附近でWNW，2°N，176°E附近でSSEの流れがみられる他は，1°N，178°E，3°N，175°E，6°N，175°E，5°～6°N，171°～173°Eのどの海域も東向きの流れで。此の海域が赤道反流域である事を示している．しかし，漁況は5°Nの以北と以南で多少異つている．

（キハダ）

南洋北部は全くの低い釣獲率で，春季の好漁期を過ぎたあとと思われ，8月以降は秋季の高率期に入り11月頃には1.5近くにまで上昇すると思われる．

南洋南部の5°N以北，170°E以東は，以南より低率であるが好漁期で6月より稍低い1.15，5°N以南170°E以東は，以北より著しく高くなお好漁期でもあるが，晩春の峠を越したので漸減過程にあり2.30，両海域とも冬季にかけ釣獲率は低下するであろう．

南洋南部の体長組成のモードは30年7月より大きい．

（メバチ）

南洋北部は極めて低率0.42，南洋南部の5。N以南の170°E以東は周知の如く以北より低率であるが，比較的高かつた春季を過ぎてかなりの低率0.43，同海区5°N以北の170°E以東は晩冬から初春にかけての好漁期を過ぎたので1.0以下になるかと思われたが，好漁期の高率と略同程度の2.01で極めて高い．この5°N以北，170°E以東の海域は豊凶の差が激しく，5月も3.0近くの高率，30年6月も2.5を越える高率で，毎年みられる冬季から夏季にかけての漸減の傾向とかけ離れているが，未だ原因は摑めていない．

南洋南部の体長組成は，30年7月の組成にみられた121～130cm，141～150cmの2つの山の他に，161～170cmに更に大きい山がみられ，大きい型のものが現れている．又，此の組成の形は31年6月の121～140cmに1つのみの山をもつ組成とは全く異つている．

（クロカワ）

北上回游によつて，5°N以北の海域の釣獲率は著しく上昇し，南洋北部は1.1，同南部の5°N以北，170°E以東は0.74である．同海区5°N以南170°E以東はそれ程上昇せず0.29で，30年以前に比較してかなり低い．

体長組成は30年7月と大差ないが，31年6月よりはモードが大きくなつている．

（シロカワ）

南洋北部のシロカワが，此の附近の海域としては稍高い釣獲率0.23を呈したが，此の現象は疑問である．

D　ソロモン，ニユーカレドニヤ海区漁場（ニユーカレドニヤ海区）

ニユーカレドニヤ海区の25°S附近の濠洲沿岸近くで操業している1隻が調査されている．

（キハダ）

冬季から春季にかけての好漁期が過ぎ0.9で極めて低率である．11月頃迄は同程度の低率が続くであろう．

体長組成は30年7月と全く同形である．

（メバチ）

此の海区は周年極めて低率であるが此の海区としては稍高い時期で0.25である．

（ビンナガ）

キハダと逆で夏季が好漁期なので，30年7月，31年7月よりは稍低いが極めて高い釣獲率4.1を呈している．8，9月は漸減してもなお高率で，10月に至るとかなり低率となるであろう．

（カジキ類）

クロカワは北上回游で赤道以北に去つたあとなので最低率，マカジキは7月は不漁期にもかかわら

ず多少釣れている．25°S附近の沿岸近くで操業しているが毎年8月頃から北上し始める大型マカジキより僅かに小さいが北上の時期が若干早いかと思われる．

E　東部印度洋漁場（小スンダ，チモール沿海，ジヤワ沿海，スマトラ西岸沿海，アンダマン，ニコバル海区）

小スンダ，チモール沿海ではジヤワ沿海との境の115°E附近で操業した6隻，ジヤワ沿海では111°E以東で操業した1隻，スマトラ西岸沿海では90°～100°Eに散つている5隻，アンダマン，ニコバル海区は南端で操業した2隻が調査されているが，31年6月のスマトラ西岸沿海の1隻と，31年7月のアンダマン，ニコバル海区の1隻は同一船で，2つの月及び両海区にまたがつていたので分離したものである．

115°E附近の海流は，11°S以北では西向きの流れ，13°S以南では東向き，乃至は北向きの流れを呈している．前者はチモール島の方からジヤワ島西端にかけて流れており12°S線に沿つて顕著な潮境が形成されている様である．

（キハダ）

20°S以南は調査されていないが，以北に於いては，6°～10°S以外は，概して海域による釣獲率の差は小さいが，表1の如く105°E以東では北よりに高くなつて居り，又，7月は高率期から低率期への過渡期で中程度の率を呈している．105°E以西の6°S以北では最低率期に当り此の海域としては極めて低い．6°～10°S，105E，以西の海域も低率になると推察されていたが非常な高率を呈した．原因不明．アンダマン，ニコバル海区は6月と同率で低率期に入つたばかりで此の海区としては低率であるが，他海域に比べれば遥かに高い．体長組成は，105°E以西で操業した2隻間に著しい差があり，3°N～9°S，94°～99°Eは131～140cmに山があり，6°N～1°S，92°～97°Eは121～130cmに山がある．105°E以東の10°～13°S，116°～117°Eで操業した船の体長組成は121～130cmに山があるが，131～140cmも相当多く，上記二者の中間の形を呈している．

表 1　東部印度洋各海域のキハダの漁況(31.7)

	90°E～105°E	105°E～115°E	115°E～130°E
15°N～6°N	2.77		
6°N～0°	1.78		
0°～6°S	2.18		
6°S～10°S	4.79	1.97	3.06
10°S～12°S		1.61	1.81
12°S～20°S			1.19

（メバチ）

メバチは表2の如く10°Sの南北で非常に異り以北の方が釣獲率が高いが，6°S以北になると又低率となる．6°～10°S，90°～105°Eの海域は1月以降上昇して4月も2.8で極めて高く，4～7月と高率期の様に思われるが30年には此の傾向がみられないので疑問，0°～6°N，90°～105Eの海域も上記海域より周年低率であるがやはり春季から夏季にかけ高率の様である．しかし，此れも，変動が大きいので疑問である．他海域は全般的に低率期から高率期への上昇初期又は中期に当る．海域により差があるが8月から11月頃迄の間に最盛期が来るであろう．アンダマン，ニコバル海区は6月より激減したが，周囲の海域とは略同率である．

表 2　東部印度洋各海域のメバチの漁況(31.7)

	90°E～105°E	105°E～115°E	115°E～130°E
～6°N	0.62		
6°N～0°	0.78		
0°～6°S	0.84		
6°S～10°S	2.57	2.09	2.24
10°S～12°S		0.41	0.95
12°S～20°S			0.73

メバチの体長組成も3°N～9°S，94°～99°Eが121～130cmに山があるのに対し，6°N～1°S，92°～97°Eは111～120cmに山があり，10°～13°S，116°～117°Eは両者の中間の形をしている．

（ビンナガ）

ビンナガは表3の如く10°S以北に比し以南の方が著しく釣獲低が高い．115°E以東は最盛期を過ぎたばかりで猶著しく高いが，105°～115°Eは好漁期を過ぎたあとで10°S以北，以南共に低率，105°E以

表 3　東部印度洋各海域のビンナガの漁況

(31.7)

	90° E – 105 E	105 E – 115° E	115° E – 130° E
0° N – 0°	0.24		
0° – 6° S	0.77		
6° S – 10° S	0.55	0.09	0.79
10° S – 12° S		0.86	3.62
12° S – 20° S			4.33

西は，6°S以北は周年低率であるが，6°～10°Sは低率期で低い．しかし，29，30年に比べて稍高いので，今年は早めに率が高くなるかもしれない．

（ク　ロ　カ　ワ）

6°S以南は全海域低率期で殆んど低率であるが，6°～10°S，90～105°Eの海域は0.67と極めて高く原因不明，0°～6°N，90°～105°Eの海域は5月以降同率を続けて高率0°～6°S，90°～105°Eの海域は4，5，6月と著しく上昇した後7月は0.98から0.48へと激減して中程度の率を呈している．後者2海域は高率期末期と考えられる．アンダマン，ニコバル海区は6月より稍低下したが，上昇期と考えられ，8月以降は上昇するのではないかと思われる．

（シ　ロ　カ　ワ）

115°E以東は好漁期から不漁期への過渡期で低く，105°～115°Eの6°～10°Sの海域は上昇過程にあり前記海域より稍高率である．

F　西部印度洋漁場（アラビヤ海区，西部印度洋海区）

アラビヤ海区では5°N以南，64°E以東の南東端で操業した1隻，西部印度洋海区では赤道から13°Sの間の各所に散在している5隻が調査されている．

海流は漁場図に示されている様に中部印度洋の5°～6°N，88°E附近では西向き，0°，82°E附近でも西向き，0°，8°N，75°E附近でも西乃至は南西向き，又2°S，74°E附近でも西向きであるが1°N，70°～72°E附近では北東向きの流れがみられる．又，アラビヤ海区でも，2°～4°N，66°～69°Eは北西か南西向きの流れがみられるが，その西側の2°～4°N，64°E附近では北東向き，南西側の0～2°N，64°～66°E附近は東北東向きの流れがみられ，両海流が直交乃至は正面からぶつかつているようである．西部印度洋海区は5°～6°S，61°E附近と6°S，50°E附近に東向きの流れがみられる他は，概して西向きの流れが多いが，8°～10°S，55°E附近では西向きの流れが南向きに方向を転じているので，ジャワ南方から流れて来た南赤道流は此の附近からマダガスカル島に沿つて南下するものと思われる．しかし，6°～7°S，50°E附近は西向きの流れであるからその北側の流れは，アフリカ大陸に当つて同大陸とマダカスカル島の間を南下するものであろう．

（キ　ハ　ダ）

アラビヤ海区は5月より激減して此の海区としては初めてみられる低率2.2となつたが，30年の変化とは大分異る様である．西部印度洋海区は低率期であるが6月より稍高くなつて6.7を呈している．9月頃迄は低率が続くであろう．

西部印度洋海区の体長組成は131～140cmにモードのあつた30年7月の組成よりモードが大きくなつて141～150cmに山がある．

（メ　バ　チ）

アラビヤ海区は高率期に突入して1.86で高く，西部印度洋海区はアラビヤ海区よりは低率であるがやはり高率期に入り此の海区としては0.79で高率である．唯，7月の頂点より低下しているが，30年は9月が最高であつたところから，もうしばらく此の高率が続くものと思われる．

（ビ　ン　ナ　ガ）

アラビヤ海区は西部印度洋海区程高率ではないが春季は比較的高くなる．7月は此の時期を過ぎたあとなので全く低率である．西部印度洋海区も5月の最高から低下しているが中程度で0.7である．

（ク　ロ　カ　ワ）

アラビヤ海区は5月から著しく上昇して西部印度洋海区より遥かに高い1.02の高率，西部印度洋海

区も高率期の模様であるが，12月から3月まで上昇した後7月まで殆んど同率を続けている.

G　北部太平洋漁場（35°～40°N，150°～160°Eの海域）

35°～39°N，153°～158°Eの海域で操業した1隻が調査されているが，漁獲物は殆んどマカジキとサメである.

（マカジキ）

此の海域は夏季が好漁期であり，0.39とかなり高い．8月はなお高率であろうが，9月以降は漸減するので此の率が何月まで続くかは不明である.

鮪類標識放流について

1. 昭和32年1月1日から2月20日迄の間に標識の委託をなした船数は2隻（20本）である.
2. 昭和32年1月1日から2月20日迄の間に放流実施の報告のあつた船数は3隻（20尾）である.

放流実施船名及び実施の概要

船名	標識番号	放流年月日	放流位置	魚種（尾数）
岩手丸	C 0076	31.12.24	20°～10° S 114°～35° E	まかじき(1)
12丸高丸	C 0111 C 0112	32.1.13	16°～17° S 116°～117° E	きはだ(1) いんどまぐろ(1)
A C晴和丸	C 1043・44 C 1048・1050	31.12.21 32.1・3～9	9°～10° S 149°～142° W	びんなが(2) めばち(2)
〃　〃	B 1171～74 1179 B 1151～53・55	31.6.19 ～6.18	2° N～4° S 52°～55° E	きはだ(7) めばち(2)
〃　〃	A 0966・968・969 B 1154	31.6.14 ～6.17	3°～4° S 58°～59° E	きはだ(2)　かつを(1) びんなが(1)

英国のクリスマス島周辺における核実験に伴う危険区域について

英国政府は太平洋クリスマス島周辺における核実験のため，昭和32年3月1日から同年8月1日までの間

西経161度30分，南緯08度30分，　西経148度30分，南緯08度30分，　西経148度30分，赤道
西経150度30分，赤道　西経150度30分，北緯07度00分，　西経158度00分，北緯07度00分，
西経158度00分，北緯03度30分，　西経164度00分，北緯03度30分，　西経164度00分，赤道
西経159度00分，赤道　西経159度00分，南緯02度30分，　西経161度30分，南緯02度30分，

の各点を結ぶ区域が危険区域となるべき旨発表したので関係の各漁船は厳に注意されたい.

（昭和32年1月14日水産庁生産部長より放送依頼）

会員リポート

小スンダ，チモール沿海昭和31年５月の海況，漁況の報告

会員　田　中　信　男　　（第十二　丸高丸船長）

1）　第１区　No. 1〜No. 8　15°〜16°S，118°〜119°E附近は，1ケ月位前よりビンナガが次第に増え，マグロ，クロカワが次第に減少し，5月に入るとビンナガは次第にうすくなりインドマグロが皆無となつた．此の附近は，約1ケ月以上に亘り，5〜7隻の船が密集し，連日，互に交叉したが，1日大体 7〜700〆の漁があり，キハダは平均に分布するも，ビンナガとメバチは疎密が極端で，同時に灯光を認めながら揚縄したが，ビンナガは100以上，メバチも30〜40位の差があつた．しかして，メバチの海域にはビンナガは少く，メカジキの多いところはビンナガも多かつた．

2）　第２区　No. 9〜No. 13　12°S，119°〜120°E附近に，東西方向の汐目があり，北側は赤道反流系で流速は 0.8〜1.0ノツトである

キハダは大型の 13〜14〆と共に，第1区にはみられなかつたキメジ 4〜5 〆も増えた．又，此の汐目に沿つて5月4日から9日にかけ，小型 3.5〜4.5〆のビンナガの密集群が現れているが，範囲はせまく，間もなく全く釣れなくなつた．第1区と第3区のビンナガは略同系と思われるが第２区の小型のビンナガは疑問である．

3）　第３区　No.. 14〜No. 20　13°〜14°S，115°Eの間に於いて，表面水温 27.9〜28.6°Cの南北方向の顕著な汐目があり，此の汐目より西へ27.9〜28.0°Cの水帯が約80哩位に亘り，その以西は再び水温が28.6°Cとなつて居り，此の冷水帯を囲む2本の汐目の外側にビンナガが密集している．此の汐目を発見した時は月令2.5であつたがその後全く移動せず，本船帰航の後月令 15附近に至り稍東に移動した模様であるが詳細は不明である．

1ケ所，上昇流と思われる表面低水温27.9°Cの所があり，水平潮流は全くみられず，その周囲を表面水温28.4〜28.6°CのSE，S，SW，Wと環状に流れる潮流がみられ，魚群は密集し，連日，動きが殆んどみられなかつた．ビンナガは5.5〜6.0〆位で密度に比例して大型となつている．

第１区に於いてはメカジキは大型20〜30〆のものがあつたが，第2，3区は 5〜10〆程度のものばかりであり，又，第3区に於いてはシロカワは小型5〜10〆が多く30〆以上の大型は殆んどなかつた．

第３区に於いては，ビンナガは隔日漁があり，平均値は次第に上昇している．180〜200尾釣れた日は一般に浅いブランに多く，少い日は深いブランに多く，又，連日，位置により型の大小は一定であるから，垂直移動によつて漁の多少が支配されていたのではないかと思われる．

◆昭和31年７月操業分の報告の投稿がありませんでしたので，昭和31年５月操業分の報告を掲載しました．会員各位の御報告をお願いいたします．

鮪漁業研究会編集部

月別，漁場別，鮪類漁獲調査表

漁場	操業区域	調査隻数	水温（°C）	流向 流速	操業回数	漁具数	鈎数		ま	
									きはだ	めばち
ハワイ南西 5° N 以北	5°～ 7°N 178°～172°W	1	27.7 28.3		22	7,920	31,680	尾数 釣獲率 百分率	408 1.29	560 1.77
サモア	1°～ 5°S 161°～159°W	1	26.8 27.4	W 0.3	23	9,200	36,800		1,663 4.52	441 1.20
トンガ	16°～ 27°S 179°～173°W	2	20.0 27.8		43	17,045	74,925		2,241 2.99	409 0.55
南洋北部 170°E 以西	18°～ 20°N 150°～152°E	1	26.7 32.0		12	2,867	11,468		4 0.03	49 0.42
南洋南部 170°E 以東	1°～ 5°N 171°～178°E	1	27.5 28.1		23	8,934	35,736		608 1.70	441 1.23
ニュー カレドニヤ	24°～ 26°S 156°～157°E	1			34	12,925	64,600		586 0.91	164 0.25
小スンダ チモール	9°～ 13°S 114°～118°E	6	25.9 27.9		124	47,753	221,514		4,314 1.95	2,748 1.24
ジャワ沿海	10°～ 12°S 111°～116°E	1	26.7 27.9		22	8,420	33,680		622 1.85	464 1.38
スマトラ西岸	6°～ 10°S 92°～103°E	5	26.7 29.4		140	52,973	241,045		5,775 2.40	2,813 1.17
アンダマン ニコバル	6°～ 10°N 90°～ 94°E	2	27.7 28.7		33	13,240	58,160		1,613 2.77	366 0.62
アラビヤ	1°～ 4°N 64°～ 70°E	1	27.0 28.4		33	13,860	55,440		1,236 2.23	1,032 1.86
西部印度洋	2°～ 9°S 48°～ 61°E	5	24.0 28.9		176	73,047	307,388		20,495 6.67	2,439 0.79
35° ～ 40°N 150° ～ 160°E	35°～ 39°N 153°～158°E	1	19.4 21.7		21	5,009	20,036			18 0.09
13		28			706	273,193	1,192,472		39,565 3.32	11,944 1.00

(昭和31年7月操業分)

(別表 1)

ぐ	ろ		か	じ	き			かつお	雑	さめ	計	記事
びんなが	~~くろ~~ まぐろ	いんど まぐろ	くろ かわ	しろ かわ	まか じき	めか じき	ばし よう					
			243 0.77	7 0.02		1 0.0	6 0.02		62 0.19		1,287 4.06	サメ未調査隻数 1 体長測定隻数 0
193 0.52			32 0.09	14 0.04	1 0.0	10 0.03	5 0.01	182 0.49	22 0.06		2,563 6.96	0 0
1,387 1.85			123 0.16	18 0.02		23 0.03	3 0.0		405 0.54	220 0.29	4,829 6.43	1 1
3 0.03			125 1.09	26 0.23	2 0.02	1 0.01	1 0.01	4 0.03	52 0.45	60 0.46	327 2.78	0 0
1 0.00			185 0.52	13 0.04	3 0.01	5 0.01	3 0.01	95 0.27	12 0.04	141 0.39	1,507 4.22	0 1
2,615 4.05		3 0.0	40 0.06	7 0.01	261 0.40	88 0.14					3,764 5.82	0 1
5,743 2.59			105 0.05	453 0.21	37 0.02	119 0.05	4 0.0		23 0.01	104 0.04	13,650 6.16	4 1
1,328 3.94			17 0.05	45 0.13	10 0.03	13 0.04	1 0.0				2,500 7.42	0 0
877 0.36			1,205 0.50	504 0.21	244 0.10	63 0.03	58 0.02		2 0.0	198 0.08	11,739 4.87	3 3
98 0.17			307 0.53	102 0.18	66 0.11	24 0.04	20 0.03			11 0.02	2,607 4.48	1 0
4 0.0			510 1.02	15 0.03	91 0.16	57 0.10					2,945 5.40	0 1
2,180 0.71			1,061 0.35	295 0.10	453 0.15	129 0.04	99 0.03	50 0.02	108 0.04	55 0.02	27,364 8.92	4 1
4 0.02	3 0.02		2 0.01		79 0.39				5 0.03	493 2.46	604 3.01	0 1
14,433 1.21	3 0.0	3 0.0	3,955 0.33	1,499 0.13	1,247 0.10	533 0.04	200 0.02	331 0.03	691 0.06	1,282 0.11	75,686 6.35	14 10

月別，漁場別，鮪類体長組成表（昭和31年7月操業分）

（別表）

魚種	測定船数	漁場	操業位置	操業回数		50cm以下	51～60	61～70	71～80	81～90	91～100	101～110	111～120	121～130	131～140	141～150	151～160	161～170	171cm以上	計	漁獲尾数
きはだ	1	トンガ	16°～22° S 173°～171° W	24	尾数 %								5 2.0	19 7.6	123 49.2	81 32.4	20 8.0	2 0.8		250 100.0	1.972
	1	南洋南部	1°～ 5° N 171°～178° E	23									6 3.3	26 14.2	67 36.6	69 37.7	14 7.7	1 0.5		183 100.0	608
	1	ニューカレドニア	24°～ 26° S 156°～157° E	34								2 2.2	4 4.4	6 6.6	17 18.9	51 56.6	9 10.0	1 1.1		90 100.0	586
	1	小スンダモール	10°～ 13° S 116°～117° E	19									9 12.9	26 37.1	20 28.6	11 15.7	4 5.7			70 100.0	575
	2	スマトラ西岸	10° N～10° S 91°～103° E	65								15 5.4	35 12.6	64 23.0	89 32.0	71 25.5	4 1.4			278 100.0	2.156
	1	西部印度洋	2°～ 3° S 48°～ 59° E	38								2 1.2	9 5.5	10 6.1	33 20.2	91 55.8	17 10.4	1 0.6		163 100.0	4.045

魚種	測定船数	漁場	操業位置	操業回数		60cm以下	61～70	71～80	81～90	91～100	101～110	111～120	121～130	131～140	141～150	151～160	161～170	171～180	181cm以上	計	漁獲尾数
めばち	1	トンガ	16°～ 22° S 173°～171° W	24	尾数 %					1 1.2	11 13.6	1 1.2	9 11.1	15 18.5	13 16.0	9 11.1	13 16.0	7 8.6	2 2.5	81 100.0	284
	1	南洋南部	1°～ 5° N 171°～178° E	23				1 1.0			2 1.9	8 7.7	20 19.2	12 11.5	20 19.2	17 16.3	22 21.1	2 1.9		104 100.0	441
	1	ニューカレドニア	24°～ 26° S 156°～157° E	34									10 20.0	11 22.0	20 40.0	6 12.0	3 6.3			50 100.0	164
	1	小スンダモール	10°～ 13° S 116°～117° E	19							4 6.7	17 28.3	14 23.3	12 20.2	11 18.3	2 3.3				60 100.0	472
	2	スマトラ西岸	3°～ 9° S 92°～ 99° E	65				1 0.6	1 0.6	6 3.3	21 11.6	52 28.7	35 19.3	27 14.9	31 17.1	7 3.9				181 100.0	1,056
	1	西部印度洋	2° N～ 3° S 48°～ 59° E	38									14 31.8	8 18.2	6 13.6	4 9.1	11 25.0	1 2.5		44 100.0	19

魚種	測定船数	漁場	操業位置	操業回数		40 cm以下	41～50	51～60	61～70	71～80	81～90	91～100	101～110	111～120	121 cm以上	計	漁獲尾数
びんなが	1	小スンダチモール	10°～13° S 116°～117° E		尾数 %						3 2.9	55 54.5	43 42.6			101 100.0	1.905

魚種	測定船数	漁場	操業位置	操業回数		130 cm以下	131～140	141～150	151～160	161～170	171～180	181～190	191～200	201～210	211～220	221～230	231～240	241～250	251～260	261 cm以上	計	漁獲尾数
くろかわ	1	トンガ	16°～22° S 173°～171° W	24	尾数 %							2 15.4	2 15.4	1 7.7	3 23.1	2 15.4		1 7.7	1 7.7	1 7.7	13 100.0	74
	1	南洋南部	1°～5° N 171°～178° E	23			4 6.5	3 4.8	2 3.2	8 12.9	24 38.7	9 14.5	4 6.5		2 3.2	2 3.2		2 3.2	2 3.2		62 100.0	185
	1	ニューカレドニア	24°～26° S 156°～157° E	34								1 16.7				2 33.3	1 16.7	2 33.3			6 100.0	7
	1	小スンダチモール	10°～13° S 116°～117° E	19							2 40.0	2 40.0			1 20.0						5 100.0	17
	3	スマトラ西岸	3° N～9° S 92°～99° E	94				2 0.6	21 6.0	120 36.1	56 16.9	69 20.8	20 6.0	14 4.2	6 1.8	12 3.6	5 15.0	3 0.9	2 0.6	2 0.6	332 100.0	921
	1	西部印度洋	2° N～3° S 48°～59° E	38						7 41.2	3 17.6	7 41.2									17 100.0	447
しろかわ	1	トンガ	16°～22° S 173°～171° W	24								1 33.3	1 33.3	1 33.3							3 100.0	17
	1	南洋南部	1°～5° N 171°～178° E	23							1 16.7	2 33.4	1 16.7		1 16.7				1 16.7		6 100.0	13
	1	ニューカレドニア	24°～26° S 156°～157° E	34								1 100.0									1 100.0	7
	1	小スンダチモール	10°～13° S 116°～117° E	19		4 25.0	5 31.3	4 25.0	1 6.2			1 6.2		1 6.2							16 100.0	53

魚種	測定船数	漁場	操業位置	操業回数		130 cm以下	131~140	141~150	151~160	161~170	171~180	181~190	191~200	201~210	211~220	221~230	231~240	241~250	251~260	261 cm以上	計	漁獲尾数
わ	3	スマトラ西岸	3°N～9°S 92°～103°E	94	尾数 %	1 0.6	35 19.3	64 35.4	18 9.9	9 4.5	16 8.8	11 6.3	8 8.4	6 3.3	5 2.7	2 1.1	1 0.6	1 0.6	1 0.6	3 1.7	181 100.0	363

魚種	測定船数	漁場	操業位置	操業回数		100 cm以下	100~110	111~120	121~130	131~140	141~150	151~160	161~170	171~180	181~190	191~200	201~210	211~220	221~230	231 cm以上	計	漁獲尾数
まかじき	1	ニューカレドニア	24°～26°S 156°～157°E	34	尾数 %									1 2.1	13 27.1	24 50.0	7 14.6	1 2.1	2 4.2		48 100.0	261
	1	スマトラ西岸	3°N～9°S 92°～103°E	29						1 1.4	1 1.4	10 14.5	7 10.1	25 36.2	24 34.8	1 1.4					69 100.0	77
	1	西部印度洋	2°N～3°N 48°～59°E	38								1 11.1	2 22.2	5 55.6	1 11.1						9 100.0	137

鮪類標識放流の現況

神奈川県水産試験場
鮪漁業研究会

1) **海域** 太平洋，印度洋を次の6海区に分離して総括

- Ⅰ 0°N以北，180°W以東の海区
- Ⅱ 0°S以南，180°W 〃
- Ⅲ 0°N以北，180 E以西の太平洋及び南支那海
- Ⅲ 0°S以南，180°E以西の太平洋
- Ⅴ 90°E以東の印度洋及びバンダ海フロレス海
- Ⅵ 90°E以西の印度洋

2) **方法** A 最初に行われた方法で，タッグを尾柄にまきつけてしばる

C 後から改めた方法で尾柄の第1副鰭附近の体を通す

3) **再捕** 55年8月10日に6°00′N， 177°50′Wで放流したメカジキの標識が55年8月13日に6°02′N，176°14′Wで捕獲されたサメの胃袋中より発見された(表中の*)

方法	海域 年月	Ⅰ											Ⅱ											Ⅲ										
	魚種	キハダ	メバチ	ビンナガ	クロカワ	シロカワ	マカジキ	メカジキ	バショウ	フウライ	カツオ	船数	キハダ	メバチ	ビンナガ	クロカワ	シロカワ	マカジキ	メカジキ	バショウ	フウライ	カツオ	船数	キハダ	メバチ	ビンナガ	クロカワ	シロカワ	マカジキ	メカジキ	バショウ	フウライ	カツオ	船数
A	29.3																																	
	4	1	2									2												2										1
	5																							1										1
	6		1									1	1										1											
	7	3	2									2	4										1											
	8	2	1									1																						
	9		2									1																						
	10																																	
	11																								1									1
	12	2	3									1				2		1					2											
	30.1		2									1				3							2	1										1
	2		3									1												2			2							2
	3	1	3				1					2												1	2									2
	4	2										2													5									1
	5				1			1				1												1			1							1
	6																							1	4									2
	7	3										3	1			1							2	5	7									1
	8	5	2		2			1				3	3	2	1								2											
	9	7			1						2	2												1										1
	10		5									2												1		2								2
	11	3	3									4												1		2								1
	12	5						1				1												3										1
	31.1	1										1																						
	2	1	3									1																						
	3		1							1		2		3									2	1	4									1
	4													2								1	2											
	5																																	
	6																																	
	7																																	
	8																																	
	9																																	
C	31.6																																	
	7																							5										1
	8																																	
	9																								1									1
	10		2									1																						

方法	海域 魚種 年月	IIII											V											VI										
		キハダ	メバチ	ビンナガ	クロカワ	シロカワ	マカジキ	メカジキ	バショウ	フウライ	カツオ	船数	キハダ	メバチ	ビンナガ	クロカワ	シロカワ	マカジキ	メカジキ	バショウ	フウライ	カツオ	船数	キハダ	メバチ	ビンナガ	クロカワ	シロカワ	マカジキ	メカジキ	バショウ	フウライ	カツオ	船数
A	29.3												3										1											
	4													3									2	12	3					5				5
	5													2									1	4	3				1	1	1		1	4
	6	7	3		1							2		6			1						2											
	7	1		1						1		2	3	2									3		1									1
	8	3	1							2		4	2	2	2		2						3	1										1
	9	1										1	1	3			1						1		2									1
	10	4	2	2			1			2		5	2										2											
	11	7			1					1	1	5	1										1											
	12	8	1		2						1	7	12	2									4											
	30.1	3			1							2	2	5			1						2											
	2	7	1									3												4									2	2
	3	4										2			2		1						1	15	1									3
	4																																	
	5	5										1												1										1
	6	1	4									1												13	16								1	3
	7																																	
	8	1										1													10									1
	9	1										1																						
	10												5										1											
	11																																	
	12													1									1		3									1
	31.1	1									1	1	8	3									3		2									1
	2	1										1												3	12									3
	3	1										1	1	2									1	1	3		1							3
	4																							1										1
	5													3	1		5		2				2											
	6																							2										2
	7																							2										1
	8	1	1									1																						
	9																							2	1									2
C	31.6																							3	3									1
	7	2		2								1		1									1	1	1									1
	8	5										1																						
	9		3									1																						
	10																																	

米国に於いて標識放流された鮪類で再捕されたもの

種類	放流				再捕				経過	
	年月日	位置	体長重	実施者	年月日	位置	体重	実施者	日数	距離
キハダ	'55. 10. 8	クリスマス島近海	111 cm	P.O.F.I.	'56. 11. 10	2° 45′N 143° W	139 cm 11.5 貫	7桜丸	13ケ月	
	'55. 9. 28	3° 52′N 159° 23′W	83.2 cm	P.O.F.I.	'56. 4. 3	ファンニング諸島近海	—	ファンニング諸島居留民	6ケ月	
	'55. 10. 8	クリスマス諸島近海	92.0 cm	P.O.F.I.	'56. 8. 2	クリスマス諸島近海	—	クリスマス諸島居留民	10ケ月	
メバチ	'55. 1. 31	30° 59′N 171° 14′W	122.3 cm	P.O.F.I. マンニング号	'55. 11. 24	オアフ西北 690 哩	成長10ポンド 1.2 貫 126.8 cm	5日康丸	10ケ月	800哩
	〃	30° 59′N 171° 14′W	109.9 cm	〃	'56. 2. 2	29° 50′N 177° 50′E	127.5 cm (4貫増加)	松友丸(静)	12ケ月	
ビンナガ	'52. 8. 4	ロスアンゼルス沖		C.F.G.	'52. 9	サンタバーバラとサンタクルスの中間沖合	(2尾)			
	〃	33° 25′N 118° 15′W	76.0 cm	C.F.G.	'53. 6. 23	31° 30′N 149° 40′E	—	5長勝丸	11ケ月	
	'53. 8. 11	29° 10′N 118° 10′W	84.5 cm	C.F.G.	'54. 2. 2	36° 40′N 172° 12′E	88.2 cm	1金比羅丸	6ケ月	
	'53. 8. 16	〃	91.0 cm	C.F.G.	'54. 2. 23	30° 10′N 178° 54′W	93.2 cm	SinoMaru		
	'54. 9. 26	ロスアンゼルス沖		C.F.G.	'55. 4. 6	31° 55′N 143° 15′E	推定2.5貫	5松栄丸 (木村節夫)	6ケ月半	
	'54. 10. 5	ハワイ北方 300 哩	15ポンド (約2貫)	P.O.F.I. マンニング号	'56. 1. 19	東京湾口 北東約75哩	40ポンド (約5貫)	日本船	15ケ月	2670哩
	'54. 10. 4	46° 30′N 159° 18′W	78.2 cm	P.O.F.I.	'55. 11. 28	35° 45′N 157° 39′E	—	日本船	14ケ月	
	'55. 10. 9	42° 16′N 147° 16′W	63.4 cm	P.O.F.I.	'56. 6. 24	31° 54′N 158° 37′E	—	6宇佐丸	8ケ月半	
	'55. 10. 17	44° 55′N 144° 48′W	59.9 cm	P.O.F.I.	'56. 8. 1	31° 21′N 117° 17′W	72.3 cm	C.F.G.	9ケ月半	
カツオ	'50. 8. 22	バーバーポイント沖		ギルバート号	'50. 8. 24	放流位置の直ぐ近く	キハダ(189ポンド22貫8)の胃中より出る	(他に7尾) ワイアナエ沖カフク沖	3〜5週間…数尾 5日…1	
	'55. 5. 25	バーバーポイント数哩の沖合	平均7ポンド(800匁)の群中の1尾	〃	'56. 2. 1	マカプーポイント数哩の沖合	14ポンド (1.7貫)	ネプチューン号		30哩

他に再捕されたものあり（鮪漁業7, 8号）但し，詳細不明

鮪類漁場別価格表 昭和31年11月（三崎）

農林省神奈川統計調査事務所三崎駐在所
農林事務官 佐藤 務

水揚船及び水揚量の構成

今月三崎港に水揚した鮪漁船（50屯以上）は55隻であり，その水揚量は冷凍物，直送物を除き約 115万貫である．

イ．屯数階層別，操業漁場別

水揚船を屯数階層別でみると大型船（300屯以上）が21隻，中型船（200～299屯）が11隻，小型船（50～199屯）が23隻という構成になつている．これを昨年11月に比較してみると，大型船では同数，中型船では1隻減少，小型船では2隻の減少，である．操業漁場別でこの水揚船をみるとインド洋が18隻（西印13隻，中印1隻，東印4隻），南太平洋17隻（サンゴ海9隻，ニューカレドニヤ4隻，旧南洋庁沿海4隻），東太平洋12隻，北太平洋5隻，南東太平洋3隻となつている．大型船では西印操業船が圧倒的に多く．この他ではハワイ南東5°N以南がある．中型船ではニューカレドニヤ，ソロモン操業船が過半数で，これに次いでハワイ南東5°N以北，北太平洋操業船がある．小型船ではソロモン（サンゴ海）操業船，東太平洋操業船がそれぞれ3分の1づつで，北太平洋，旧南洋庁沿海操業船の順となつている，漁場別水揚量（冷凍物，直送物を除く）ではインド洋が最も多く48万貫で4割を占め，次いで南太平洋の33万貫，東太平洋の20万貫，北太平洋の7万貫，南東太平洋の7万貫で南太平洋の増加が著しい．

ロ．魚種別

鮪漁船による水揚量の中，主な魚種5種でそれぞれの水揚量をみると，クロカワ（シロカワを含む）の増加が目立ち37万貫，キハダ34万貫，メバチ26万貫，マカジキ4万貫，ビンナガ2万貫である．

漁場別，魚種別価格

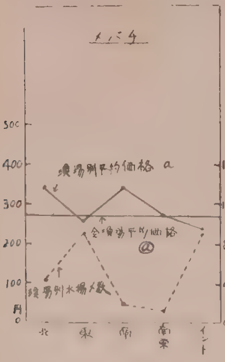
魚価は例年この月は中だるみ月で，先月に較べると鮪類は殆ど値下りを余儀なくされている．しかし値下りしたとはいえ昨年に較べると1割～2割方の値上りをみせている．因みにインド洋の魚種別価格の昨年比でこれをみると．

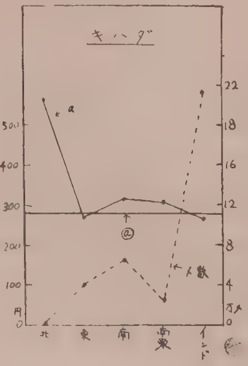
ビンナガ――286円で52円高
メバチ――241円で34円高
キハダ――266円で25円高
マカジキ――295円で14円高
クロカワ――330円で71円高

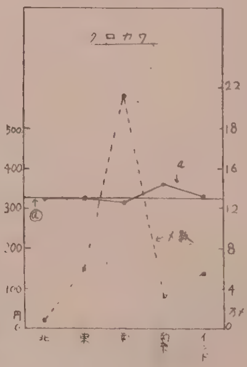
とそれぞれ値上りとなつている．

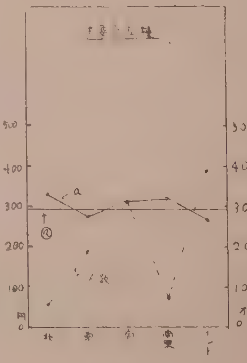
先月における魚価は昨年に較べ今年の方が安かつたが，これは昨年10月が全国的品薄で高値を呼んだためであろうと考えられるし，またこの月の昨年比高値は今月の一般的な好況がその原因の一つとして挙げられ，例年12月の需要期を幾分早めた結果ではなかろうかと考えられる．

第1図メバチにおける南の価格は比較的近距離漁場のものが多かつたので高値となつた．第2図キハダの北の高値は水揚量全く少く，たまたま良質物に恵まれた結果である．第3図クロカワでは南が最も安くなつているが，これはシロカワが多いためであり，この月クロカワとシロカワの価格の差は15円であつた．ここに図示してないがこの他ビンナガが南太平洋，インド洋で50%づつあるが，価格は両漁場同じで286円である．またマカジキは南東404円，南394円，インド295円，東251円，北250円で，南及び南東のものは他の漁場に較べ全く高値であつた．

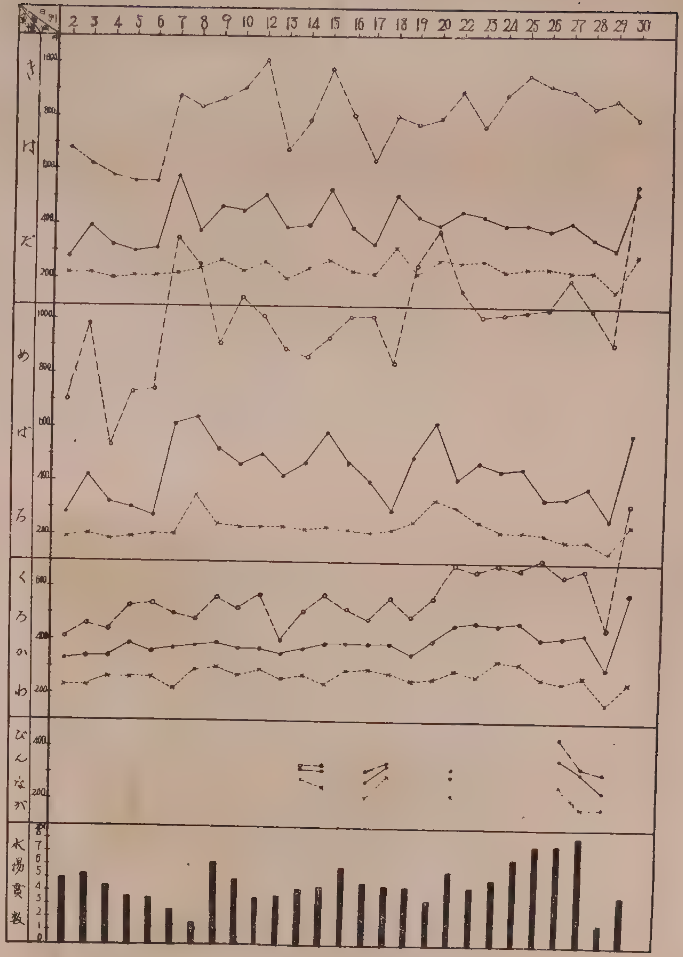




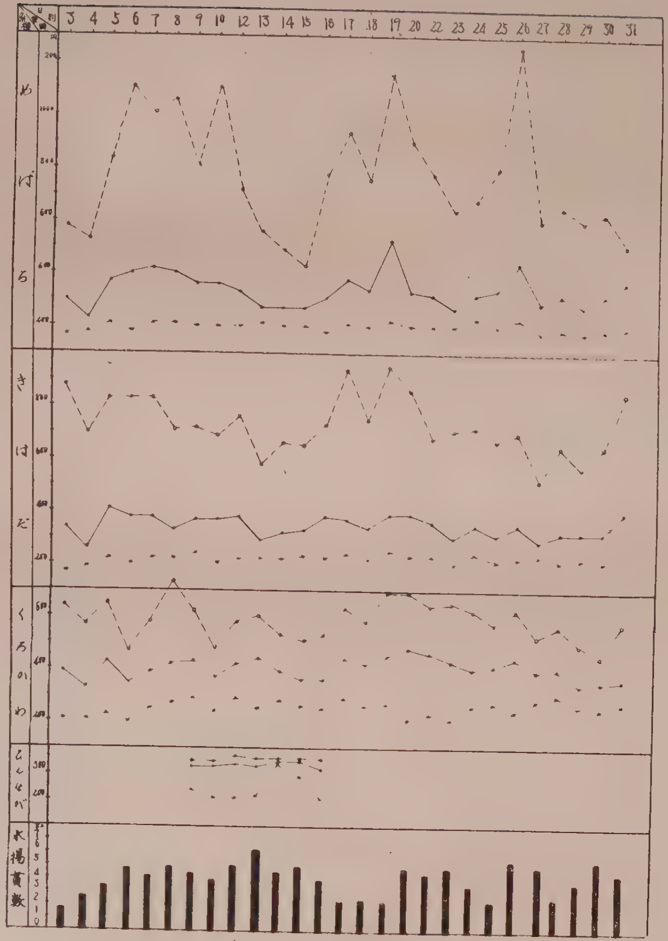




鮪類水揚価格表（三崎）昭和三十一年十二月



鮪類水揚価格表（三崎）昭和三十二年一月



海のかなたの鮪漁業

神奈川県水産試験場漁撈部訳

パシフイツクフイシヤーマン（1956.Sopt.）より

（旋網型漁船タコマ号）

§ 豊富な鮪資源をかかえて販路に悩むオーストラリヤ

鮪産業確立のためオーストラリヤは鮪の販路を必要としている．オーストラリヤ大湾には鮪が極めて豊富に棲息しており，経験はあまりないが元気な鮪船漁夫達により，たやすく漁獲されている．又新鮮な餌料は充分にあるが，簡単には入手出来ず，いちいち漁獲しなければならないし，その上活魚艙で生餌を飼うこともむつかしい．

しかし難問題はある点までは技術的なことであるが，主として経済的な点である．鮪の資源が非常に豊富にあつたとしても，それは販路があつて始めて漁業としての意味があるのである．伊勢えびに関する水産業を除いてオーストラリヤの水産業は未開であり，地方に於ける魚類消費の方が大きい．

§ スベリージヤンガード船長とその弟のクリス．ジヤンガードは最近南オーストラリヤ沿岸水域を3ケ月に亘り試験操業或は調査し，所信を述べたがアメリカ人漁夫のみならず，あらゆる国の漁夫の中で，彼等程南オーストラリヤの漁業に関し語ることの出来る人はあるまい．

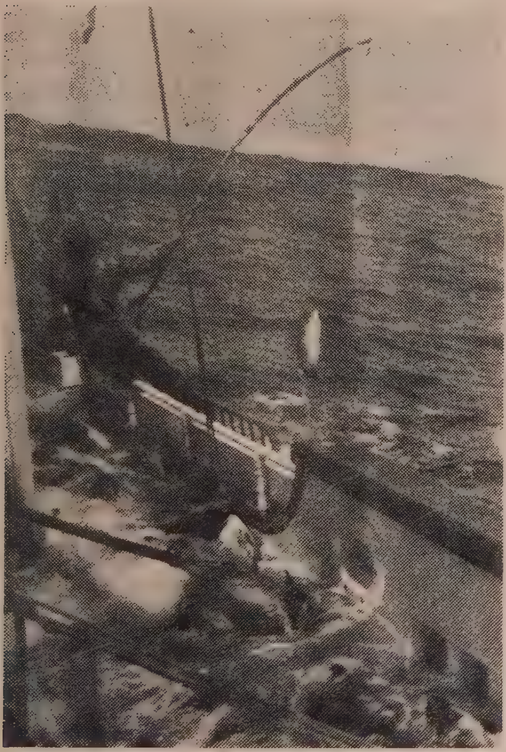
ジヤガード家の人々はノールウエーで漁業を営んでいたが，米国へ渡りハリバツト漁業に成功し，それからサーテイスの鰊漁業に転業して成功し，再び“さめひれ”や“びん長”ブームにのつてこの漁業に転業し，彼等の船を南カルフオルニヤに回航してからは鮪漁業に全力を集中し漸次成功をおさめて今日に及んでいる．嘗つて太平洋漁業研究所とケイラーダール漁業会社がライン諸島の鮪延縄漁業の企業的試験を試みたことがあつたがジヤンガード家にそれを依頼した．というのは彼等一家は古くからの経験者であり，鮪に関しても詳しいし，探究心強く，進取の気質に富んでいたからである．

南オーストラリヤ州政府や，ホートリンカーン漁業会社やホーダン兄弟やその他オーストラリヤ漁業者が，オーストラリヤの鮪資源につき調査せんとし彼等はジヤンガード家の人達に白羽の矢を立て依頼したのである．

§ 彼等は2隻の漁船タコマ号とフエアーツナ号で試験操業を行つた．南オーストラリヤのタコマという地名をとつて鮪漁船の船名としたについては面白い話がある．

教年前南オーストラリヤのポートフエアリーにあるホーダン兄弟が，パシイフイツク，フイシヤマンに掲載された旋網型漁船の写真を見て，これにならつて船を建造したいと思い，その船の設計図はどこで入手出来るだろうと当社に問い合せがあつた．そこで我々は適当と思われる教ケ所の旋網型の船を造れる造船所を紹介した処，タコマにあるウエスタンボートビルデング会社から設計図を入手することが出来た．そして遂にその船が完成したときホーダン兄弟は非常に喜び同船の船型の発祥地にちなんでタコマと名づけたのであつた．もう一つ面白い話がある．それはジヤンガード家の人達がオーストラリヤに着いたとき，オーストラリヤの漁夫達が“アラスカリミツト船”という言葉を使つていたので驚いた．そこでジヤンガート氏が「その言葉はどこから覚えたのか」と尋ねると「パシイフイツク，フイシヤマンからだ，我々はよくその本を読んでいる．我々が使つている言葉で“アラスカリミツト船”という意味は50乃至60フイートの旋網型漁船のことをいつている」と答えた．

§　タコマ号は87フィートの旋網型漁船でフエアーツナ号はこれより幾分小さく装備は多少違うが共に申分のない船であつた．ジヤンガード兄弟がオーストラリヤに来る前に，タンクや必要装備について図面を送り，此等はすべて到着前に用意されていた．船や漁具の準備は良好でタコマ号は魚を釣り上げるに一番具合のよいレールから約18インチ下に釣台を作つた．船の漁撈準備は全く出来上つた．



§　漁夫は餌料を漁獲するのに不慣れで，時には練習を必要とすることもあつたが，船乗りを稼業とする人達の多いイングランドやスコツトランドの出身者なので，餌を手まどらずに入手することが出来た．しかしオーストラリヤはアメリカに比べると漁業をも含めた生活のテンポがすべて遅いようである．

§　オーストラリヤの漁業者は餌料に関し重大な支障を来たすようなことはない．南オーストラリヤ沿岸には餌料になるような小さい魚類が豊富におり，小型真鯵や，たしかに鰯の一種と思われる魚種を使用している．これらは活魚艙の中で充分飼うことが出来るので問題はないが，片口鰯は有効である反面，産卵直後のものは飼い付に不適当な場合がある．数年前オーストラリヤ東海岸で鮪の試験操業を行つた時は，生餌が死んで支障を来たしたが，それは生餌が弱いというより寧ろ取扱の経験が不充分であつた為に起つたものであるとジヤンガード氏は考えた．最初は生餌を漁獲するのに困難なときもあつたが，小型漁艇によりランパラネツトを使用するようになつてからは順調に生餌を漁獲出来るようになつた．

§　南オーストラリヤ州知事プリフオード氏はジヤンガード氏の試験事業に大いに共鳴し，深い関心を寄せて，自ら船に乗つて漁業試験を視察した．幸いにも彼が乗船した際は3人の漁夫で2時間のうちに26トン（6900貫）の漁獲をあげるという3ケ月の全試験期間を通じて最大の漁獲成績であつた．プリフオード知事は南オーストラリヤ州の魚類資源の開発に極めて深い関心を持つており，この試験事業を大いに激励した．

§　試験航海において鮪の漁獲された範囲は陸地から沖合20マイルの水域で缶詰工場からは80マイルの範囲内であつた．しかもその距離で充分必要を満すことが出来た．アメリカのクリツパー型の漁船なら1週間以内に必ず満船して市場に水揚出来るとジヤンガード氏は確信を持てた．鮪は事実上は濠洲鮪に属するもので，若干鰤が混獲された．この濠洲鮪は南カルフオルニヤや北メキシコ沖合で漁獲されるくろまぐろと僅かに違うが，優良な魚種と思われる．初航海は2挺“ばね”により約50～60ポンド（6.0～7.2貫）の鮪が漁獲され，次の航海は約20～30ポンド（2.4～3.6貫）の明らかに前航海とは魚体の大きさが違う魚群に遭遇した．この事実は漁場を洄游する二つの魚群があることを示しているし，又漁期の変化もあるだろうということが想像出来る．しかし試験期間中漁獲は豊漁であつて漁獲量に変化はなかつた．そして漁期に激しい変化があつたとしてもたつた3ケ月の操業期間でははつきりそれを見究めることは出来なかつた．

§　英本国の過去6ケ月の鮪の輸入量は50万ケースで鮪の消費は明らかに増えて来ている，英連邦特恵権により英本国はオーストラリヤにとつて最大の市場である．処が英本国はペルーから輸入されている鰹により食生活が習慣づけられていることは大いに問題である．この鰹は明るい色で，風味よく肉質は柔らかく英本国のバイヤーから周年発注がある．現在ロンドンで売り出されている濠洲鮪は色が少し黒いし，肉が硬く若干味にも難があるのでたいして歓迎されていない．言いかえると，濠洲鮪は市場に進出するのが遅かつたため，南米産の鰹の方が好まれているともいえるのである．多分濠洲鮪は米国でも売

り出されているだろうが，アメリカ国内の製品や日本製品と競争しなければならないだろう．なお濠洲鮪は，処理加工の際，変色することがあり，アメリカへ輸出するには変色の程度が甚だしく暗色になることもあるから，これらの不良品が出ないようその加工法を考えなければならない．

§ 南オーストラリヤの漁業開発のためには，更に技術的，生物学的，経済的な調査研究を行う必要がある．

技術的な面では，漁撈作業やその準備法，魚の加工法等を充分に研究して魚肉の変色をなくすか，或はその程度を少くし，生物学的な調査としては（これには，実際の漁獲状況を基礎とした資源と利用価値の研究をふくむ）濠洲鮪以外の魚種の漁場を見付ける．例えばジャンガード氏の意見によると，今年の調査海域よりももつと沖合でびん長を見付ければ有利である．びん長漁場を発見できれば，この魚は高価であるばかりでなく，缶詰にして英国や米国へ，又冷凍して米国へいつでも輸出することが出来るだろうから，外貨獲得になり非常に有望である．

経済的な調査では，英国および英連邦諸国やカナダにおける濠洲鮪の市場性を定める必要がある．又輸送価格についても，缶詰を船積みする時の運賃を少くするよう研究しなければならぬ．

§ 濠洲鮪は，高度に機械化されてはいないが，優れた技術をもつた近代的な工場で缶詰にされている．輸出用缶詰を作り，外貨を獲得する鮪缶詰業には政府資金が出ているが，国内用としては別に外国から輸入しなければならない．

§ 鮪以外の漁業に関するジャンガー氏の研究によれば，次のようなこと又いえる．伊勢蝦を除いた他の漁業資源，特に底棲生物については，とりつくさぬように注意しなければならぬ．遠洋性の魚類，例えば，鮪その他の洄游性の魚類資源は豊富であるように思え，実際に豊富なのであるが，他の魚類の場合はそうではない．“Couta” と，いわゆるオーストラリヤさけ（これは，さけとは全く違う種類である．）とは，ある程度の漁獲があるが，価値のあるのは，オーストラリヤさけの方である．さば，にしん，いわし類や他の群棲性の魚類の資源についてはジャンガード氏は，オーストラリヤで考えられがちのように多量であるとは思つていない．

§ 数年前，南アフリカで非常に発展した様に，衰微した漁場を復活する可能性は少いようである．魚探或いは肉眼で魚群を観察し，又餌捕獲用の網で試験的に操業して，ジャンガード氏は次の様な結論に達した．魚群は一般に全く僅かで，普通オーストラリアで考えられているような漁獲を望むのは無理である．しかし，この種の小型魚は有望な鮪漁業の餌として多量に漁獲できるように思える．

南オーストラリヤの天候は，非常に悪く，普通ＳＥの風が吹き続けて，漁撈作業に困難を来すことはないが，海上は相当に荒れ，ブリテイツシユ，コロンビアやワシントン，オレゴン各州の沿岸で吹く夏期のＮＷの風によく似ている．南オーストラリヤ沿岸には優秀な港が多く，漁港には缶詰工場があり，労働力が比較的豊富である．しかし，オーストラリヤ南岸のこれらの港では港湾諸設備が完全でなく，荷役賃が高い．南オーストラリヤからロンドンへ缶詰を出す時の荷役賃は商人にとつて少なからぬ負担のものである．

§ ジャンガード氏は，水面に鮪が出ていない時や生餌が得られない時の漁撈法として延縄漁法を考えているが，これは機械化することのできる漁法でその方法を検討している．

本会の図書誌の分譲其の他について

◎本会発行の図書誌を分譲致しておりますから御申込下さい。

会　　誌　【鮪漁業】　第6—37号（第1—5号品切）｛第6—28号各100円 郵送料16円／第29—37号各150円

鮪類水揚地調査報告（自昭和27年5月　至昭和28年4月）

1部　300円　（B5判150頁）　郵送料　24円

鮪類水揚地調査報告（自昭和28年5月　至昭和29年3月）

1部　400円　（B5判226頁）　郵送料　40円

漁場天気図（東部印度洋、25°N—25°S　西部太平洋、80°E—150°E）昭和29年8月版

1部　250円　（B3判50枚綴）　郵送料　48円

鮪漁船操業図　（航走距離早見表、鮪類年令対体長体重表刷込）

1枚　50円　郵送料　8円

鮪漁場図　（32海区劃に表示したもの）

10枚　100円　郵送料　16円

——お願い——

◎会員各位の鮪漁業に関する調査や研究或は体験、漁具漁法の改良、遭難防止等についての投稿其の他写真を御願いします。

◎本会に入会を希望される方は住所、氏名、職業、会誌の送り先を記入の上年間会費1500円（他に会費送料200円）を添えて研究会宛御申込下さい。

◎本誌に広告掲載希望の方は、本会伊藤専務理事迄御申込下さい。

◎鮪漁船必携の教書とも云うべき鮪類水揚地調査報告（昭和28年度、昭和29年度分）は鮪船には是非備付けるようにしたいものです。御希望の向は代金500円（28.29年度二冊特価郵送料共）を添えて本会宛御申込下さい。

◎大変恐縮ですが会費第2年目（昭和30年分）第3年目（昭和31年分）未納の方は本会宛払込送金方（振替貯金口座横浜1472）お願い致します。

鮪漁業
1957年2月号

昭和32年2月10日印刷
昭和32年2月10日発行
監修　神奈川県水産試験場調査部
編集兼発行人　菅野進
神奈川県三浦市　神奈川県水産試験場内
発行所　鮪漁業研究会
（振替貯金口座横浜　1472）

まぐろ延縄には漁材科学の生んだ

比重調整と樹脂加工を併用した延縄

アサヒテツクスロープ を御使用下さい

特徴
① コールタール染不要
② 着色自由 ③ 比重の適正
④ あらゆるロープの中で耐久耐摩耗力は一番すぐれております。

アサヒテツクスロープ株式会社

本社　東京都三鷹市下連雀四〇〇番地　電話 武蔵野 3978 番
出張所　神奈川県三浦市三崎町仲崎一四三番地　電話三浦221番

※　説明資料は当鮪漁業研究会に御申込下さい　※

新工場落成量産開始

太洋無線が世界に誇る

各種
陸上用
航空機用
船舶用

自動方向探知機

太洋無線株式会社

東京都渋谷区楽楽町48番地
電話渋谷（46）代表 5283—9 番

漁船の氷、餌料の仕込は

三崎漁連へ　砕氷設備毎時50屯2基完備

（向ケ崎・花暮岸壁）

凍結能力　日産 一七屯 ―――― 冷蔵収容量 六〇〇屯
製氷能力　日産 五〇屯 ―――― 貯氷能力 五五〇屯

三崎漁業協同組合連合会（製氷冷凍工場）

会長　寺本正一

神奈川県三浦市三崎港　TEL（三浦）609・655 番

鋼木船造修一般
五百屯船台一基
四百屯船台二基

三崎船舶工業株式会社
神奈川県三浦市三崎港
（電話 三浦 343 番）

緑星社のＳＶ６型**ラジオブイ**

用途；鮪延縄・鮭鱒流網・捕鯨・底曳トロール

漁具流失防止　位置確認　操業時間短縮　等々

株式会社　**緑星社**

代表取締役　吉田内次

研究所　東京都中央区築地5の1（東京中央卸売市場内）
電話（54）2371
営業所　東京都中央区小田原町2の11　電話（54）7679番
函館出張所　函館市根崎町140

営業品目

商船用・漁船用並びに陸上用無線通信装置の製造
装備・補修一式

七洋電気株式会社（ナナヨウデンキ）

取締役社長　満本英一
取締役　橋本清
取締役　長田孝

本社　東京都目黒区中目黒4丁目1315番地
電話荏原（78）4103番

漁船には専門メーカーの
穂高の漁業無線機を

★　最新の技術と堅牢・高性能を誇る

500W
250W
150W
120W
75W
50W
35W
25W
10W

穂高通信工業株式会社

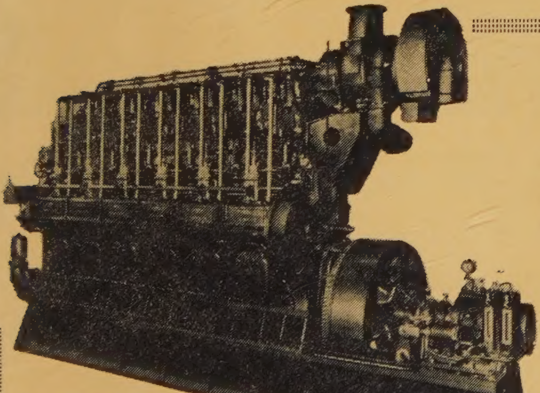
本社　東京都新宿区下落合1—6　TEL（95）2595・6219
大阪営業所　大阪市西区京町堀上通2—21協栄ビル　TEL（44）5792・4109
東京工場　東京都新宿区下落合1—6　TEL（95）2595・6219
長野工場　長野県南安曇郡穂高町2579　TEL（穂高）61
代理店　小樽・函館・八戸・気仙・沼石巻・塩釜・小名浜・那珂湊・銚子・三崎・清水・焼津・室戸・下関

光電の方探

全方向
自動直視式

株式会社 光電製作所

東京都品川区上大崎長者丸284の1
電話白金(44)代表1131～5



船舶用6ZS型1200 BHP 過給機付
ディーゼル機関　（クラッチ付）

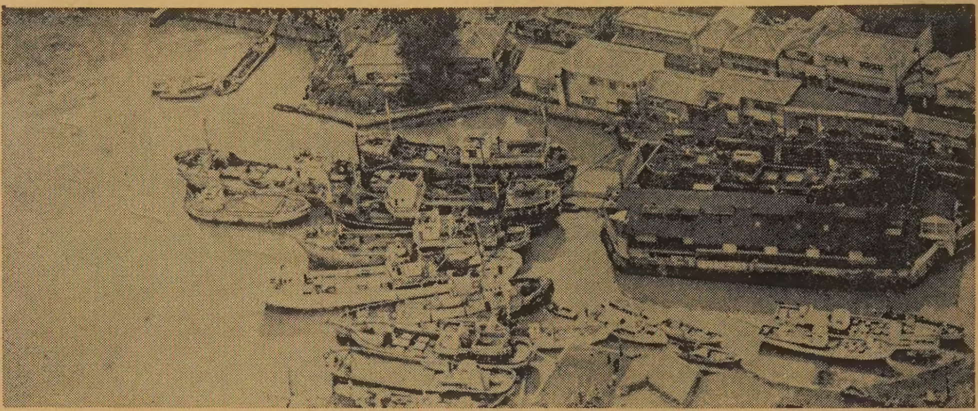
ハンシン
ディーゼル

陸船用デイーゼル
50 HP——2400 HP

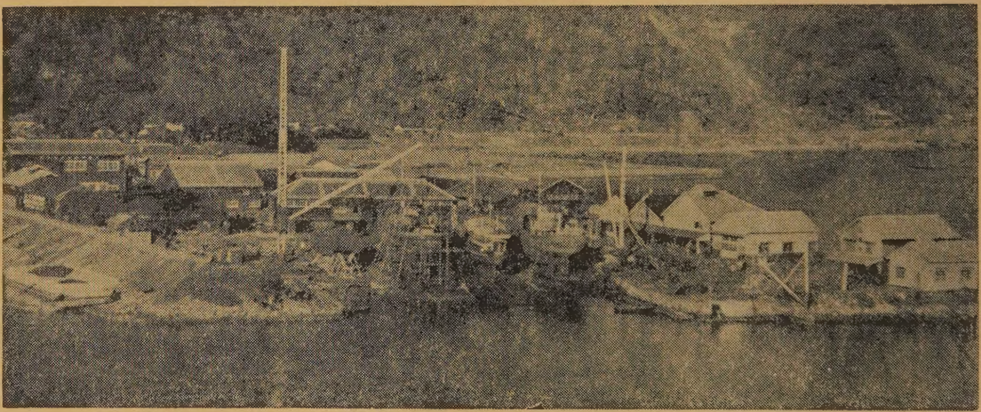
阪神内燃機工業株式会社

本　　社　神戸市長田区一番町3丁目1　電話湊川（5）1531—6
東京支店　東京都千代田区丸ノ内・丸ビル601区　電話和田倉（20）3640—1
下関出張所　下関市豊前田町・第一ビル内　電話　下関　768

漁船の建造修理の御相談は



総噸数五〇〇噸
長五一米、巾一〇米。深四・五米
ドライドツク 一



長四〇米 巾七・五米（四〇〇屯）
船台に使用の場合
二条軌条式（二五〇屯） 一
四条軌条算盤式（五〇〇屯） 一
船架（船台兼用）

下田船渠株式会社

静岡県下田港　本社工場 電話下田 9・10・53　武ケ浜工場 電話下田 77・242
東京事務所　港区芝田村町4の13　電話（43）2539・8655

内燃機関・空気圧縮機・起重機・運搬機
電気諸機械・ボイラー・タービン
代理販売・技術顧問・据付工事

太平物産株式会社

東京都中央区築地四丁目11大石ビル三階　電話 代表（54）1,887